

お知らせします

厚岸の学びの状況

令和８年度　全国学力・学習等状況調査の結果について

●問い合わせ／教育委員会指導室（役場内）

令和８年４月20日（月）から全国学力・学習状況調査が実施されました。

今回の調査では、国語、算数・数学、英語（中学校のみ）の教科調査と学習の状況を把握するための児童・生徒質問調査が実施されました。

この調査で把握できる学力や学習状況は児童生徒の状況の一端ですが、調査結果から学校教育活動の状況や児童生徒の学びの状況と傾向を捉えることで、今後の教育活動の改善を進めていきます。

令和８年度　全国学力・学習状況調査の概要

1．調査期日　令和８年４月20日（月）から５月29日（金）

2．調査対象　小学６年生…38人　　中学３年生…56人

3．調査内容　（1）教科に関する調査（国語、算数・数学、英語（中学校のみ））

（2）質問調査（児童生徒に対する調査・学校に対する調査）

小学校

こんな力を育みます

国語：自分の考えが伝わるように表現を工夫する力

算数：定義や公式を活用した説明する力

《国語》　全国水準と比較して…○：高い　△：同水準　●：低い

○：『記述式』　△：『読むこと』

●：『話すこと・聞くこと』『書くこと』

・全体としては全国平均を下回っていますが、自分の考えを文章にまとめる力や文章を読み取る力は高い傾向にあります。また、無回答率が低く、粘り強く問題に取り組む姿勢がうかがえます。一方、話し合いの内容を聞き取ったり理解したりすることや、学力の差に課題が見られます。

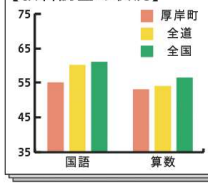
《算数》

○：『測定』　△：『数と計算』

●：『図形』『データの活用』

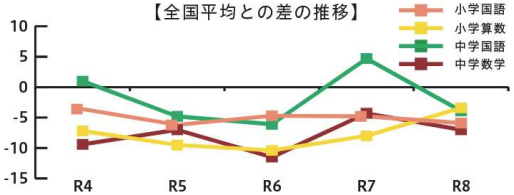
・全体としては全国平均を下回っていますが、少数と整数に関する仕組みや計算などの学習では全国平均を上回っています。一方、図形や表・グラフを読み取ることに課題があり、児童による学力の差も大きくなっています。国語とは反対に無回答率が高く、算数への苦手意識がうかがえます。

【教科調査の状況】





【全国平均との差の推移】



中学校

こんな力を育みます

国語：読む・書く力、考えを伝える力

数学：図形や関数の理解、筋道を立てて説明する力

英語：読む・書く力、自分の考えを英語で伝える力

《国語》　全国水準と比較して…△：同水準　●：低い

△：『話すこと・聞くこと』『言葉の特徴や使い方』

●：『読むこと』『記述式』

・全体としては全国平均を下回っていますが、言葉の使い方などの知識事項は全国水準でした。また、無回答率が低く、最後まで書こうとする高い意欲がうかがえます。一方、文章の中心的な部分を読み取る力や論理的に文章を書く力に課題が見られます。

《数学》

△：『データの活用』

●：『図形』『関数』

・全体としては全国平均を下回っていますが、表やグラフから情報を読み取る問題や記号で答える問題は良好でした。一方で、図形や関数の問題に課題が見られます。『なぜそうなるのか』という理由や計算の道筋を、言葉や式を使って相手にわかりやすく説明する表現力が不足しています。

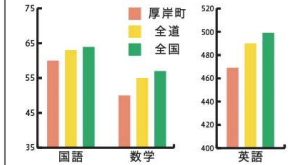
《英語》

△：『聞くこと』

●：『話すこと』『読むこと・書くこと』

・日常的な話題について、必要な情報を聞き取る問題の正答率は高い傾向にあります。一方、記述問題は全国平均を下回り、英文から必要な情報を探し出すことや、自分の考えとその理由を英語の文章や言葉にして伝える力に課題があります。

【教科調査の状況】



※中学英語のみＩＲＴスコア

【ＩＲＴとは】

正答・誤答が、問題の難易度によるのか、児童生徒の学力によるのかを分析。

500を基準に得点で表すもの。

ふるさとを担い、ふるさとを想い、豊かにたくましく自分らしく生きる人に！

質問調査の結果では、厚岸町の子どもたちは、『自分の考えを工夫して発表する』『課題の解決に向けて自分で考える』『最後まで粘り強く解答しようと努力する』など、授業に向かう姿勢に関する設問への肯定的な回答がとても高い傾向にあります。また、ＩＣＴ機器の活用頻度は全国を圧倒的に上回っており、情報の収集、スライドの作成など、授業の中で効果的に活用できていることがうかがえます。

学校外での学習面や生活面については、家庭での学習時間が短く、ＳＮＳや動画視聴時間が長い傾向にあります。特に、平日に４時間以上ＳＮＳや動画視聴をする割合は、小中ともに全国平均を大きく上回り、生活習慣に課題が見られます。読書の時間は、小中いずれも10分以下、または、全く読まない割合が半数を占めています。生活習慣を見直し、学習や読書の時間を確保することは、社会に出たときに必要な力を養うことに繋がります。

また、『人の役に立ちたい』『将来の夢や希望を持っている』『地域や社会のために何かしてみたい』と考えている子どもが多いことが分かります。前向きな気持ちを持っている子どもたちに私たち大人がしっかりと寄り添い、成長を支える存在になっていきたいと考えています。

学校では、ふるさと教育を軸としながら、地域の『人・もの・こと』との関わりを通して、自ら考え、判断し、行動するなど、子どもたちがたくましく生きていくための力を養えるよう教育活動を推進しています。子どもたちが将来、**『ふるさとを担う人となり、また、どこにいてもふるさとを想う人となり、それぞれの地域で豊かにたくましく自分らしく生きる人』**として活躍する未来に向け、学校・家庭・地域が連携しながら、子どもたちの学びを支えていけるよう、ご協力をお願いします。

～ 学校では ～

・子どもたち一人一人に着目した関わりからやる気を引き出し、主体的に学び、生きて働く知識や技能、未知の状況にも対応できる思考力や判断力、表現力などが身に付くよう指導・支援します。
・ＩＣＴ機器を効果的に活用し、自分で考え、仲間と深め合う授業づくりを推進します。
・体力、健康、安全への意識向上と運動機会の保障を継続的に行います。

～ 家庭では ～

・親子の対話は子どもの学びの定着や表現力などの力を育みます。お子さんとの会話を楽しみましょう。
・『早寝・早起き・朝ご飯』は生活リズムも基本です。声かけ、見守りをお願いします。
・親子でスマートフォンなどの情報端末機器の使い方のルールを作りましょう。守れたときは褒め、守れなかったときはなぜ守れなかったのか、考えさせてください。
・家で机に向かう環境と習慣を整え、時間を決めて学習や読書に取り組みましょう。

～ 教育委員会では ～

・町内の学力・学習状況を分析し、成果や課題から改善策を提示します。
・目的や目標を明確にした教育活動の推進や、場面に応じたＩＣＴ機器の適切な利活用などを通して、子どもたちに確かな学力の育成を図るため、教師の指導力向上と授業改善の推進に努めます。
・探究的な学びのプロセス（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）を大切にした『ふるさと・キャリア教育』の推進に努めます。

【質問調査の状況】

